

色々な人と 交わる

レポート
交流 2
あれこれ

「南安曇農業高校 学校開放講座」



11月9日、堀金烏川にある南農高校第2農場。果樹研究部長の高橋春菜さん（高3・穂高北穂高）の目にうつすら涙が浮かびました。

「講座の運営は、皆さんの笑顔に助けられました」。

この日、果樹研究部の生徒たちが企画運営し、講師を務めたリンゴや米などの栽培体験講座は、最終日を迎えました。講座の受講者は、市民や県外の大人たち。4月から全7回にわたり、作物の栽培方法や実験の結果などについて、生徒たちに率直な質問や意見を出してきました。これは、担当の先生から受講者へ唯一お願いしていたことのようにです。

「生徒には、何か教わっても、すぐに納得するなど言っています」と担当の

最終日のこの日、大根やリンゴを収穫。



すぐ、
納得するな。

羽山功先生（44・堀金烏川）。自ら学び高め
るこの取り組みに手応えを感じています。

「この授業は受け身でいられません。人と交わることで責任感や感謝の気持ちが生まれ、説明能力や深い知識を身に付けます。部長の高橋の涙は、人に対して責任を果たした安ど感からくるものでしょう。受講者の皆さんにはいい勉強をさせてもらいました」と羽山先生。

副部長の青柳勇輝さん（高3・堀金三田）は、「相手のことをしっかりと考える」と説明ができない。交流を通じて考える癖がつきました」と、まっすぐな目で話します。

（取材・11月9日）



受講者の質問に答える青柳くん。お互い真剣な表情。

「穂高東中学校 職場体験学習」

見えないものが、
見えてきた。

穂

高東中の職場体験学習は、社会への適応力やマナーの習得よりも、「人はなぜ働くのか」という問いに真正面から向かい合うことを柱としています。

まず1年次、何人かの親たちの働く姿に触れ、実際に働いている人たちの話を聞く場が多数設けられます。生徒の中から「やり続けることで見えてくるものがある」、「仕事をやめたいと思ったことはないだろうか」という感想が聞かれるなど、働くことへの考えや疑問が積み重なりました。

そして2年次、生徒たちは現在の考えをまとめた上で、7月に3日間、市内の企業などで体験学習に臨みました。

「働くことは、みんなでつながって、

協力して生きていくということ」。

体験学習の終了後、そう考えたのは、市内菓子店で働いたある生徒。一生懸命作った製品を買っていくお客さんに触れ、そのお客さんが営む仕事には、自分も逆の立場でかわっているかも知れないことに気付き、大きな社会のつながりを想像しました。

また、保育園で働いたある生徒は、子どもを預かったことで、その親や地域から信頼されていることを実感。「信頼がなければ、働くことは成立しない」と感じ取りました。

この授業を担当する堀金猛先生（43・豊科南穂高）は、「とにかく体験すれば学べるというのではなく、積み重ねを大切にしたいと考えました。働く姿の裏にある人とかかわりや仕事に対する思いなどに触れたことが、進路選択の上でも土台になれば」と期待を寄せています。

（取材・11月20日）



担当の堀金先生。放課後、剣道部のけいこでお忙しい中、親切に取材に応じていただきました。



市内を中心とした80余りの企業や官庁が3日間の体験学習に協力。写真は建設現場と病院の薬剤部での体験。

各生徒が作った職場体験レポート。写真やレイアウトなど親しみやすく作られています。

